

# 2024年3月期決算説明会

2024年5月14日  
宝ホールディングス株式会社

- ▶ 宝ホールディングスの木村でございます。
- ▶ 本日は、お忙しい中、宝グループの2024年3月期決算説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

## 本日の内容

### I.2024年3月期決算

### II.2025年3月期業績予想

### III.2025年3月期事業戦略

1. 宝酒造
2. 宝酒造インターナショナルグループ

### IV.サステナビリティ

### V.財務方針

➤ 本日は、

- ・ 2024年3月期決算、
- ・ 2025年3月期業績予想
- ・ 2025年3月期事業戦略
- ・ サステナビリティ
- ・ 最後に財務方針についてご説明いたします。

# I. 2024年3月期決算

➤ はじめに、2024年3月期決算についてご説明いたします。

## 中期経営計画2025概要

長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100<sup>th</sup>」  
(2020年4月～2026年3月)

中期経営計画2022  
2020年4月～2023年3月

中期経営計画2025  
2023年4月～2026年3月

各事業のビジネスモデル  
と経営基盤を再構築し、  
足元を固める3年間

成長・強化領域への  
投資を加速させ、企業  
価値を高める3年間

- ▶ 当社グループは、会社創立100周年となる2026年3月期を節目とした6年間の長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100<sup>th</sup>」を進めており、
- ▶ 当期からは、その第2ステップである中期経営計画2025を「成長・強化領域への投資を加速させ、企業価値を高める3年間」と位置づけて事業を推進しております。

## 2024年3月期 宝ホールディングス（連結）業績

(百万円)

	2024年3月期実績	前期比 (%)	中計1年目 計画比 (%)
売上高	339,372	▲3.2	▲4.4
売上総利益	113,933	▲5.0	▲5.8
営業利益	22,242	▲41.4	▲15.4
経常利益	23,336	▲39.7	▲12.9
親会社株主に 帰属する 当期純利益	16,176	▲23.7	+7.8
	2024年3月期実績	2023年3月期実績	中計1年目計画
海外売上高比率 (タカラバイオグループ除く)	55.3% (54.0%)	48.3% (50.2%)	56.3% (54.7%)



5

- 中期経営計画2025の1年目である2024年3月期の宝ホールディングスの連結業績です。
- 売上高は3,393億7,200万円、前期比マイナス3.2%、中計比マイナス4.4%
- 売上総利益は1,139億3,300万円、前期比マイナス5%、中計比マイナス5.8%
- 営業利益は222億4,200万円、前期比マイナス41.4%、中計比マイナス15.4%
- 経常利益は233億3,600万円、前期比マイナス39.7%、中計比マイナス12.9%
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の売却等による特別利益がありましたので、161億7,600万円、前期比マイナス23.7%、中計比プラス7.8%となりました。
- 海外売上高比率は、55.3%で、タカラバイオグループを除くと54%となりました。
- 尚、2024年3月に紅麹原料を使用しておりました、松竹梅白壁蔵「霽」プレミアムロゼを自主回収した件につきましては、製品自主回収関連損失8,200万円を特別損失として計上しております。

## 2024年3月期 事業別 業績

(百万円)

		2024年3月期 実績	前期比 (%)	中計1年目 計画比 (%)
宝酒造	売上高	123,786	+0.7	+0.2
	売上総利益	31,728	+8.4	+1.8
	営業利益	5,503	+12.5	+21.2
宝酒造 インターナショナル グループ	売上高	160,427	+16.7	▲3.1
	売上総利益	51,715	+22.0	▲0.9
	営業利益	12,291	+13.6	▲1.7
タカラバイオ グループ	売上高	43,505	▲44.3	▲18.4
	売上総利益	26,908	▲39.9	▲20.8
	営業利益	3,003	▲85.4	▲62.5



6

- ▶ 次に事業別の業績です。
- ▶ はじめに宝酒造ですが、売上高は、1,237億8,600万円、前期比プラス0.7%、売上総利益は、317億2,800万円、前期比プラス8.4%、営業利益は、55億300万円、前期比プラス12.5%、営業利益の中計比はプラス21.2%となりました。
- ▶ 宝酒造インターナショナルグループは、売上高は、1,604億2,700万円、前期比プラス16.7%、売上総利益は、517億1,500万円、前期比プラス22%、営業利益は、122億9,100万円、前期比プラス13.6%、中計比はマイナス1.7%となり、前期比では2ケタ以上の伸びとなりましたが、中期計画には届きませんでした。
- ▶ タカラバイオグループは、売上高は、435億500万円、前期比マイナス44.3%、売上総利益は、269億800万円、前期比マイナス39.9%、営業利益は30億300万円、前期比マイナス85.4%、中計比でもマイナス62.5%となりました。



# 2024年3月期 宝ホールディングス（連結） キャッシュフロー計算書

## ◇連結キャッシュフロー計算書

(百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減
営業キャッシュ・フロー	45,478	<b>29,178</b>	▲ 16,299
投資キャッシュ・フロー	▲ 10,474	<b>▲ 19,993</b>	▲ 9,518
フリーキャッシュフロー	35,003	<b>9,185</b>	▲ 25,818
財務キャッシュ・フロー	▲ 22,215	<b>▲ 13,448</b>	8,766
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,267	<b>2,661</b>	▲ 605
現金及び現金同等物の期末残高	91,785	<b>90,184</b>	▲ 1,601

## ◇減価償却費・のれん償却費

(百万円)

	2024年3月期 実績	前期比	
		増減	率 (%)
減価償却費（有形・無形）	<b>9,999</b>	+ 880	9.7
のれん償却費	<b>1,179</b>	+ 181	18.1



- ▶ 当期の連結キャッシュフロー計算書です。
- ▶ 営業キャッシュ・フローは、291億7,800万円となり、対前期で162億9,900万円減少しました。税金等調整前当期純利益の減少が主な要因です。
- ▶ 投資キャッシュ・フローは、マイナス199億9,300万円で、前期からは95億1,800万円支出が増加しました。投資有価証券の売却による収入がありましたが、投資による支出等が増加しました。
- ▶ 財務キャッシュ・フローは、マイナス134億4,800万円で、前期からは87億6,600万円支出が減少しました。前期に社債の償還があったことによるものです。
- ▶ 以上の結果、「現金及び現金同等物の期末残高」は901億8,400万円となり、前期から16億100万円減少しました。
- ▶ 減価償却費および、のれん償却費の状況は、下の表の通りです。

## 2024年3月期 投資実績、配当（予定）・自己株取得実績

宝グループ全体では270億円の投資。  
配当は29円の予定で、11月から2月にかけて30億円の自己株取得を実施

### ◇投資実績

	2024年3月期実績	中計1年目計画	概要
宝酒造	41億円	49億円	・伏見工場 缶チューハイラインの設備更新 ・松戸工場 設備増強に向けた土地購入
宝酒造 インターナショナル グループ	119億円	105億円	・北米でのM&A（酒類：オンタリオ社、 食材卸：ミナモトホールセール社のグループ化） ・北米、スペインでの倉庫機能拡張・移転
タカラバイオ グループ	109億円	160億円	・遺伝子・細胞プロセッシングセンター3号棟に関 わる費用 ・同2号棟におけるベクター製造エリア、無菌充填 エリアの増強
宝グループ連結	270億円	318億円	

### ◇配当（予定）・自己株取得実績

配当	29円（配当性向35.3%）
自己株取得	30億円



- こちらは、投資実績、配当・自己株取得の状況です。
- 宝酒造では、伏見工場での缶チューハイラインの設備更新、松戸工場における設備増強に向けた土地の購入、
- 宝酒造インターナショナルグループではM&Aや、倉庫機能の拡張や移転を実施いたしました。
- タカラバイオグループでは、遺伝子・細胞プロセッシングセンター3号棟に関わる費用の計上や、2号棟におけるベクター製造エリアの増強等を実施し、宝グループ全体では270億円の投資を行いました。
- 配当は、29円、配当性向35.3%とする予定です。
- また、2023年11月から2024年2月にかけて30億円の自己株取得を実施しました。



# 2024年3月期 宝ホールディングス（連結） 貸借対照表

## ◇連結貸借対照表

(百万円)

	2023年3月末	2024年3月末	増減		2023年3月末	2024年3月末	増減
流動資産	241,513	245,213	+3,700	流動負債	67,454	80,657	+13,202
現金及び預金	96,820	95,085	▲1,734	支払手形及び買掛金	21,775	22,315	+539
受取手形及び売掛金	69,717	70,123	+406	借入金・社債	4,919	15,008	+10,089
棚卸資産	66,904	71,052	+4,148	その他の他	40,760	43,333	+2,573
その他	8,070	8,951	+880	固定負債	76,401	76,345	▲55
固定資産	157,661	192,254	+34,593	借入金・社債	35,186	25,422	▲9,763
有形固定資産	88,890	104,882	+15,991	その他の他	41,214	50,922	+9,708
無形固定資産	15,931	18,336	+2,404	負債合計	143,856	157,003	+13,146
投資その他資産	52,838	69,036	+16,197	株主資本合計	177,363	183,749	+6,386
資産合計	399,174	437,468	+38,293	資本金・資本剰余金	15,220	15,943	+722
				利益剰余金	163,825	169,909	+6,084
				自己株式	▲1,682	▲2,103	▲420
				その他包括利益累計額	26,588	44,915	+18,327
				非支配株主持分	51,366	51,799	+432
				純資産合計	255,318	280,465	+25,146
				負債純資産合計	399,174	437,468	+38,293

## ◇ROE・ROIC

	2024年3月期実績	中計1年目計画
ROE	7.5%	7.2%
ROIC	4.8%	5.8%



9

- 先程のキャッシュフローを踏まえた当期末の連結貸借対照表について、前期末との対比でご説明いたします。
- 流動資産は全体で37億円増加しました。
- 現金及び預金が、先にご説明した各セグメントでの投資等により17億3,400万円減少しましたが、棚卸資産が主に為替の影響で41億4,800万円増加しました。
- 固定資産は全体で345億9,300万円増加しました。
- 有形固定資産が、各セグメントでの投資等により159億9,100万円増加し、投資その他資産についても、投資有価証券の時価評価等により161億9,700万円増加しました。
- この結果、資産合計は前期末に比べ382億9,300万円の増加となりました。
- 次に負債ですが、流動負債は、132億200万円の増加となりました。借入金・社債が、シンジケートローンおよび社債の固定負債からの振替により、100億8,900万円増加したことが主な要因です。
- 固定負債は5,500万円の減少で、借入金・社債において先程の振替による減少があり、「その他」に含まれる、有価証券の時価評価に伴う繰り延べ税金負債や、海外グループ会社でのリース債務の増加等がありました。
- 負債合計は前期末に比べ131億4,600万円の増加となりました。
- 最後に純資産ですが、その他包括利益累計額の増加183億2,700万円は、有価証券の時価評価差額や、前期対比で円安となったことによる為替換算調整勘定の増加が主な要因です。
- この結果、純資産合計は前期末に比べ251億4,600万円増加しました。
- 本中計の定量目標であるROEは7.5%、ROICは4.8%となりました。

## Ⅱ. 2025年3月期業績予想

➤ 続いて2025年3月期業績予想についてご説明いたします。

## 2025年3月期 宝ホールディングス（連結）業績予想

(百万円)

	2025年3月期予想	前期比 (%)	中計最終年目標 (2026年3月期)
売上高	362,000	+6.7	4,200億円以上
売上総利益	123,500	+8.4	—
営業利益	25,700	+15.5	380億円以上
経常利益	26,300	+12.7	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	17,200	+6.3	—
	2025年3月期予想	2024年3月期実績	
海外売上高比率 (タカラバイオグループ除く)	57.9% (56.9%)	55.3% (54.0%)	60.0%以上 (60.0%以上)



11

- ▶ 2025年3月期の宝ホールディングス連結の通期業績予想は
- ▶ 売上高が、3,620億円、前期比プラス6.7%、
- ▶ 売上総利益は、1,235億円、前期比プラス8.4%
- ▶ 営業利益は、257億円、前期比プラス15.5%、
- ▶ 経常利益は、263億円、前期比プラス12.7%、
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、172億円、前期比プラス6.3%を計画しております。
- ▶ 海外売上高比率は、57.9%で、タカラバイオグループを除くと56.9%となる見通しです。

## 2025年3月期 事業別 業績予想

(百万円)

		2025年3月期予想	前期比 (%)	中計最終年目標 (2026年3月期)
宝酒造	売上高	122,373	▲1.1	1,232億円
	売上総利益	32,160	+1.4	—
	営業利益	5,731	+4.1	50億円
宝酒造 インター ナショナル グループ	売上高	179,000	+11.6	2,180億円
	売上総利益	57,933	+12.0	—
	営業利益	13,750	+11.9	167億円
タカラバイオ グループ	売上高	48,900	+12.4	681億円
	売上総利益	29,598	+10.0	—
	営業利益	5,000	+66.5	150億円



- ▶ こちらは事業別の予想です。
- ▶ 宝酒造では、売上高は、1,223億7,300万円、前期比マイナス1.1%、売上総利益は、321億6,000万円プラス1.4%、営業利益は、57億3,100万円プラス4.1%とする計画です。
- ▶ 宝酒造インターナショナルグループは、売上高は、1,790億円、前期比プラス11.6%、売上総利益は、579億3,300万円プラス12%、営業利益は、137億5,000万円プラス11.9%とする計画です。
- ▶ タカラバイオグループは、売上高は、489億円、前期比プラス12.4%、売上総利益は、295億9,800万円プラス10%、営業利益は50億円でプラス66.5%とする計画です。
- ▶ 宝酒造は、わずかに減収ながら増益となり、宝酒造インターナショナルグループ、タカラバイオグループは、増収増益の計画です。



## 2025年3月期 事業別 上期・下期業績予想

(百万円)

		2025年3月期 上期予想	前期比 (%)	2025年3月期 下期予想	前期比 (%)
宝ホールディングス (連結)	売上高	171,000	+4.8	191,000	+8.4
	売上総利益	57,500	+3.7	66,000	+12.9
	営業利益	10,400	▲16.6	15,300	+56.5
宝酒造	売上高	60,173	▲1.7	62,200	▲0.6
	売上総利益	15,751	▲1.4	16,409	+4.2
	営業利益	2,797	▲29.2	2,934	+89.2
宝酒造 インター ナショナル グループ	売上高	85,000	+10.2	94,000	+12.9
	売上総利益	27,616	+13.3	30,317	+10.9
	営業利益	6,750	+7.9	6,999	+16.0
タカラバイオ グループ	売上高	20,200	+5.7	28,700	+17.7
	売上総利益	12,299	▲7.8	17,299	+27.5
	営業利益	150	▲89.4	4,850	+204.5



13

- ▶ こちらは事業別の上期・下期の業績予想です。宝ホールディングス連結では、上期の営業利益は前期比マイナス16.6%ですが、下期は前期比プラス56.5%とする計画です。
- ▶ 宝酒造の上期につきましては、焼酎の減少に加え、消毒向け需要の減少等により原料用アルコールが減少するため、売上高が減少するのに加えて、広告宣伝費や販売促進費が増加することで営業利益は、前期比マイナス29.2%、11億5,500万円の減益となります。下期は前期に比べ広告宣伝費・販売促進費が減少し、前期比プラス89.2%、13億8,300万円増益とする計画です。
- ▶ 宝酒造インターナショナルグループは、上期、下期ともに前期比プラスの計画です。
- ▶ タカラバイオグループは、上期は地域別のグローバル戦略を進めること等で、売上高は増加しますが、原価率が高まることで売上総利益が減少し、営業利益は前期比マイナス89.4%、12億6,000万円の減益となります。下期は受託のCDMO事業の売上高が増加することで、売上総利益が増加し、営業利益は前期比プラス204.5%、32億5,700万円の増益を見込んでいます。



## 2025年3月期 為替変動の影響

宝酒造・宝酒造インターナショナルグループ合計では為替変動の影響は軽微

### ◇主な為替の状況（対前期）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	差異
米ドル/円	140.66	<b>140.00</b>	▲0.66
ポンド/円	175.03	<b>177.00</b>	+1.97
ユーロ/円	152.10	<b>153.00</b>	+0.90

### ◇宝酒造・宝酒造インターナショナルグループの為替感応度

(百万円)

	対ドル1円円安時の 当期の営業利益への影響
宝酒造	▲103
宝酒造インターナショナルグループ°	+101
合計	▲1

- 次に、為替変動の影響についてご説明します。
- 2025年3月期の為替見通しはご覧の通りですが、ドルに対し1円円安となった場合の、当期の営業利益への影響は、宝酒造で1億300万円のマイナス、宝酒造インターナショナルグループで1億100万円のプラスとなり、
- 合計では、100万円のマイナスと影響額は軽微であります。

## 2025年3月期 宝ホールディングス（連結）キャッシュフロー・定量目標

### ◇連結キャッシュフロー

(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	増減
営業キャッシュ・フロー	29,178	33,431	4,253
投資キャッシュ・フロー	▲ 19,993	▲ 25,557	▲ 5,564
フリーキャッシュフロー	9,185	7,874	▲ 1,311
財務キャッシュ・フロー	▲ 13,448	▲ 16,495	▲ 3,047

### ◇減価償却費・のれん償却費

(百万円)

	2025年3月期 予想	前期比	
		増減	率 (%)
減価償却費（有形・無形）	9,800	▲199	▲2.0
のれん償却費	1,500	+320	+27.2

### ◇ROE・ROIC

	2024年3月期実績	2025年3月期予想	2026年3月期目標
ROE	7.5%	7.3%	9.0%以上
ROIC	4.8%	5.2%	7.5%以上



- ▶ 続きまして、連結キャッシュフローは、営業キャッシュフローが334億3,100万円、投資キャッシュフローがマイナス255億5,700万円、フリーキャッシュフローが78億7,400万円、財務キャッシュフローはマイナス164億9,500万円を計画しております。
- ▶ 減価償却費および、のれん償却費はご覧の通りで、
- ▶ ROEについては7.3%、ROICは5.2%となる見通しです。

## 2025年3月期 投資計画・配当予想

宝グループ全体では255億円の投資を計画。配当予想は31円、配当性向35.2%

### ◇投資計画

	2025年3月期計画	概要
宝酒造	42億円	・松戸工場 大型PETライン統合 ・楠工場 キュービライン更新
宝酒造 インターナショナル グループ	94億円	・M&A投資 ・北米、スペイン等での倉庫機能拡張・移転等
タカラバイオ グループ	104億円	・遺伝子・細胞プロセッシングセンター3号棟の 建設
宝グループ連結	255億円	

### ◇配当予想

配当	31円（配当性向35.2%）
----	----------------



- ▶ 2025年3月期の投資計画と配当予想です。
- ▶ 宝グループ全体では255億円の投資を計画しており、
- ▶ 宝酒造では、松戸工場での大型ペットラインの統合や楠工場でのキュービラインの更新
- ▶ 宝酒造インターナショナルグループでは、M&A投資に加えて、北米、スペイン等での倉庫機能の拡張や移転等を行ってまいります。
- ▶ タカラバイオグループでは、遺伝子・細胞プロセッシングセンター3号棟の建設等、引き続き成長・強化領域への投資を実施してまいります。
- ▶ 配当は31円、配当性向35.2%の予想です。

## Ⅲ. 2025年3月期 事業戦略

### 1. 宝酒造

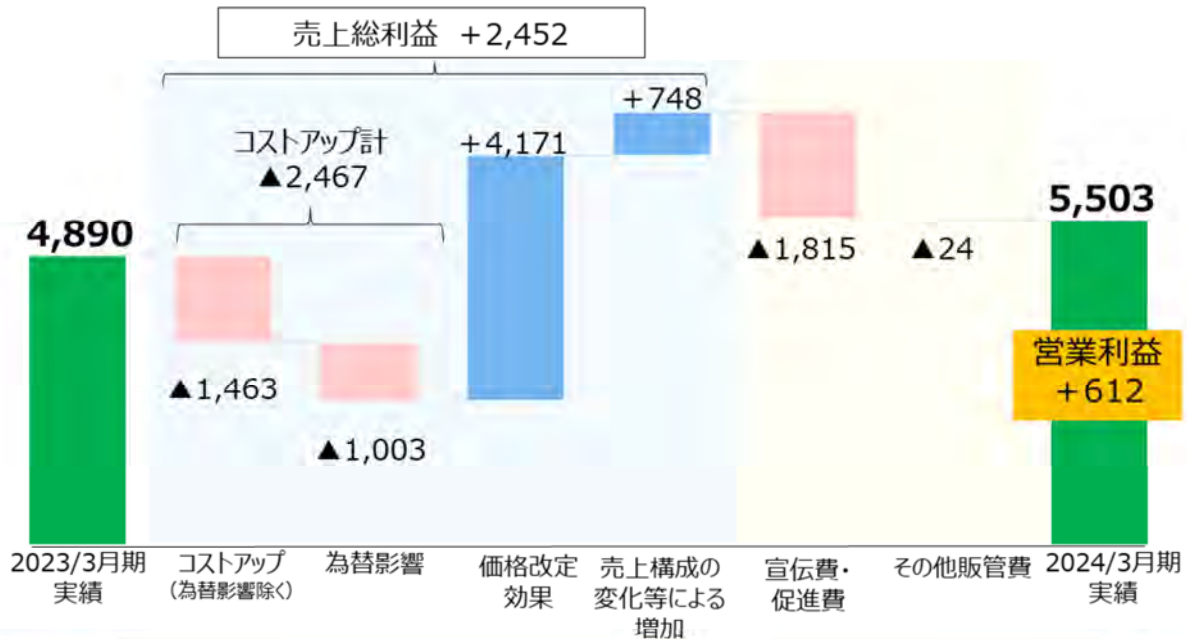
- 次に2025年3月期の事業戦略について事業別にご説明します。
- はじめに宝酒造です。

## 2024年3月期 宝酒造 営業利益増減分析 <対前期>

価格改定効果や売上構成の変化等により売上総利益が増加し、コストアップや宣伝費・促進費の増加を吸収し増益

◇対前期営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示)

(百万円)



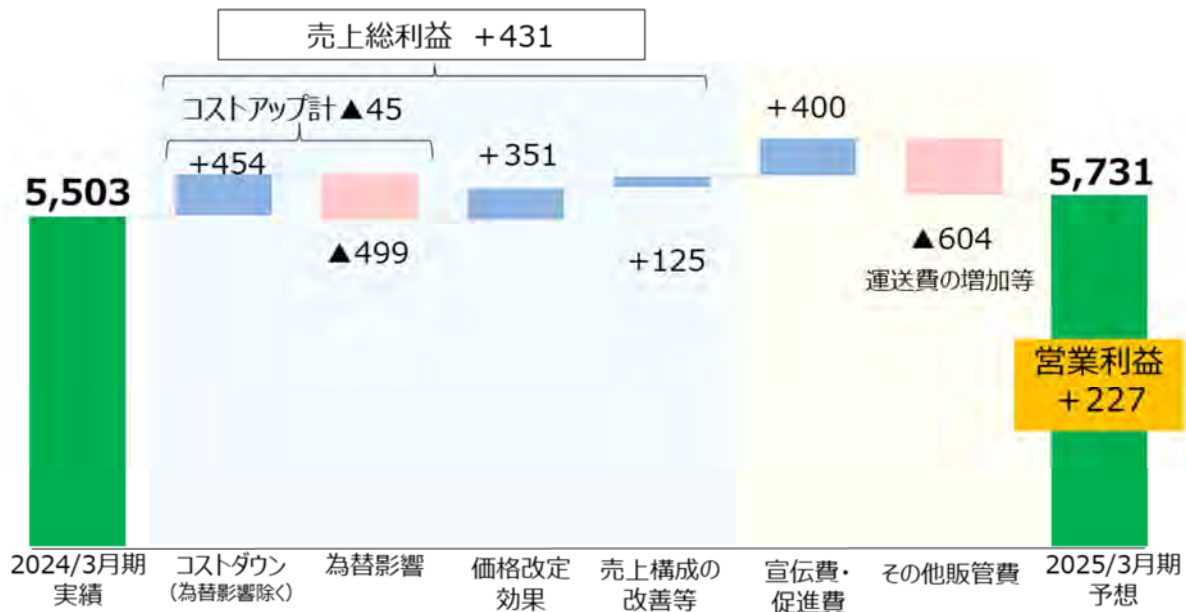
- 事業戦略の前に、2024年3月期の営業利益実績の前期対比での増減分析です。
- 主に2022年10月の価格改定効果や売上構成の変化等によりコストアップ24億6,700万円を補い、売上総利益が24億5,200万円増加しました。
- これにより宣伝費・促進費等の増加額18億1,500万円を吸収し、営業利益は6億1,200万円の増益となりました。



## 2025年3月期 宝酒造 営業利益増減分析 <対前期>

為替影響をコストダウンと価格改定効果等でカバーし、売上総利益で増益。  
 運送費の増加等があるものの、宣伝費・促進費が減少することで増益とする計画

◇対前期営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示) (百万円)



- 続きまして、2025年3月期の営業利益計画の前期対比での増減分析です。
- 為替影響を、コストダウンと2023年10月等、前期に実施した価格改定効果等でカバーし、売上総利益は4億3,100万円増加する計画です。宣伝費・促進費が減少するものの、運送費の増加等により販管費は増加しますが、営業利益は2億2,700万円増加する計画です。

## 2025年3月期 宝酒造 全体方針・重点テーマ

全体方針	ブランド育成を徹底し、利益率を高めるとともに、世界の市場に向けて和酒を拡大する
------	---

- 商品開発力とブランド育成力を強化し、利益・利益率を大きく改善する。
- 「重点ブランド」と「輸出」を拡大する。
- 安全・安心を第一に考えた取り組みを強化し継続する。
- 全社一体となったコスト削減を継続・進化させる。

- ここから宝酒造の全体方針、重点テーマについてご説明します。
- 2025年3月期の全体方針は、ブランド育成を徹底し、利益率を高めるとともに、世界の市場に向けて和酒を拡大することです。
- 重点テーマは、
  - ・ 商品開発力とブランド育成力を強化し利益・利益率を大きく改善する。
  - ・ 「重点ブランド」と「輸出」を拡大する。
- 等ご覧の4つであります。

## 重点ブランド育成

2024年3月期の重点ブランドの売上高は前期比プラス5.6%、売上総利益はプラス11.9%で推移。2025年3月期の売上高はプラス6.4%、売上総利益はプラス7.8%を計画

### ●重点ブランド販売計画

(百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	前期比 (%)		2025年3月期 計画	前期比 (%)
売上高	43,051	45,447	+5.6	➡	48,368	+6.4
売上総利益	11,931	13,357	+11.9		14,396	+7.8

- まず重点ブランドの育成についてご説明いたします。
- 2024年3月期の重点ブランドの売上高は前期比プラス5.6%、売上総利益は前期比プラス11.9%となりました。
- 引き続き2025年3月期の売上高はプラス6.4%、売上総利益はプラス7.8%と伸ばしていく計画です。

## 重点ブランド育成

2024年3月期は重点ブランドの売上構成比が上昇。価格改定による利益率の改善もあり全体で売上総利益率も改善。2025年3月期も重点ブランドの拡大と利益率の改善に取り組む

### ●重点ブランドの育成状況

	2023年3月期 実績		2024年3月期 実績		2025年3月期 予想	
	売上 構成比 (%)	売上 総利益率 (%)	売上 構成比 (%)	売上 総利益率 (%)	売上 構成比 (%)	売上 総利益率 (%)
宝酒造計	100.0	23.8	100.0	25.6	100.0	26.3
重点ブランド	35.0	27.7	36.7	29.4	39.5	29.8
その他	65.0	21.7	63.3	23.5	60.5	24.0

- 売上高の増加により、2024年3月期は重点ブランドの売上構成比が2023年3月期の35%から36.7%へと上昇しました。
- 加えて、価格改定による利益率の改善があり、全体で売上総利益率も23.8%から、25.6%と改善しております。
- 引き続き2025年3月期も重点ブランドの拡大と利益率の改善に取り組んでまいります。

## 重点ブランド育成計画 タカラ「辛口ゼロボール」

2024年3月期は食事に合うこと等を訴求したTVCMにより販売数量が拡大し、認知率も上昇。松岡修造氏を起用したTVCMを継続し、ブランドを育成

・「辛口ゼロボール」販売数量前年比

2023年4月～ 2024年3月	前期比 (%)
	224

※「辛口ゼロボール」2022年10月発売

●今期上期も前期に引き続きTVCMを投下



・「辛口ゼロボール」育成指標



TVCMイメージ



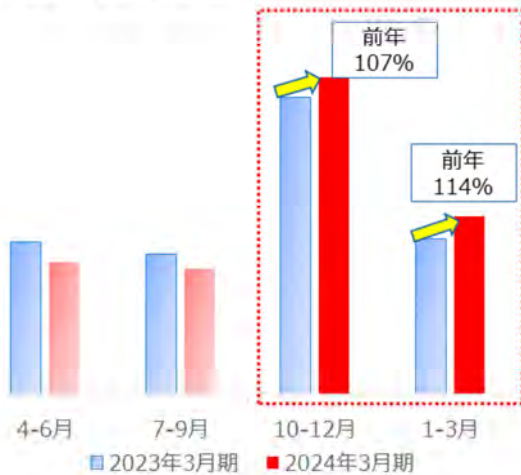
- ここから、各重点ブランドの育成計画についてご説明します。
- はじめにタカラ「辛口ゼロボール」です。
- 2024年3月期は食事に合うこと等を訴求したTVCMの効果もあり、販売数量が拡大し、商品特長認知率や、飲用経験率も上昇しました。
- 2025年3月期の上期も松岡修造さんを起用したTVCMを継続し、ブランドをさらに育成してまいります。



## 重点ブランド育成計画 松竹梅白壁蔵「霽」

2024年3月期はクリスマスや年末年始に向けたTVCMの投下により、ブランドが活性化。引き続きTVCMやSNS動画コンテンツによる情報発信を強化

### ・「霽」販売数量推移



### ●TVCM・デジタル広告の投入

・今期上期もTVCMを継続



浅田真央氏を起用したCM

### ●SNS動画コンテンツの強化

2024年3月期	2025年3月期目標
フォロワー数	フォロワー数
18万人	22.5万人

- 松竹梅白壁蔵「霽」については、2024年3月期の前半は販売数量が前年を下回っていましたが、クリスマスや年末年始に向けたTVCMの投下により、ブランドが活性化し、2023年10月以降、販売数量が前年を上回って推移しました。
- 引き続き、「霽」の拡売に向け、TVCMの継続投入やSNS動画コンテンツによる情報発信を強化してまいります。

# 重点ブランド育成計画 タカラ「焼酎ハイボール」

BS番組提供の継続やファンサイトの活用等により、ロイヤルユーザーを囲い込むことに加え、多岐にわたる限定品の発売により新規ユーザーを獲得していく

## ●ロイヤルユーザーの獲得

- ・BS番組提供により“大衆酒場の世界観”を訴求



「夕焼け酒場」2004年の放送開始から10周年

- ・夕焼け酒場デザイン缶  
数量限定発売

<パッケージ裏面>



大衆酒場の  
雰囲気  
が  
味わえる限定  
イラスト入り

対象フレーバー：  
ドライ・レモン・  
沖縄シークワーサー

7月以降順次切り替え

- ・タカラ「焼酎ハイボール」  
ファンサイトの活用

約3万人登録



## ●新規ユーザーの獲得

- ・多岐にわたる限定品の発売



<特製コーラ割り>

アルコール分5%



<岩下の新生姜割り>

アルコール分7%

6/4発売予定

➤ 続いて、タカラ「焼酎ハイボール」です。

➤ BS番組提供の継続や、夕焼け酒場デザイン缶の発売、ファンサイトの活用等により、ロイヤルユーザーを囲い込むことに加え、多岐にわたる限定品を発売し、新規ユーザーを獲得してまいります。

## 重点ブランド育成計画 松竹梅「昴」

「香る和酒」市場の活性化に向け、サンプリング、デジタル広告を展開し、ユーザーを獲得していく

### ●サンプリングによる「香る和酒」実体験の獲得



### ●デジタル広告投入

- ・配信時期：4－6月
- ・配信プラットフォーム：  
YouTube、Amazon Prime  
TVer、Netflix、Yahoo! など

 YouTube  TVer  NETFLIX



➤ 続いて、松竹梅「昴」です。

➤ 「香る和酒」市場の活性化に向け、サンプリングによる実体験の獲得やデジタル広告の展開により、ユーザーを獲得してまいります。

## **Ⅲ. 2025年3月期 事業戦略**

### **2. 宝酒造インターナショナルグループ**

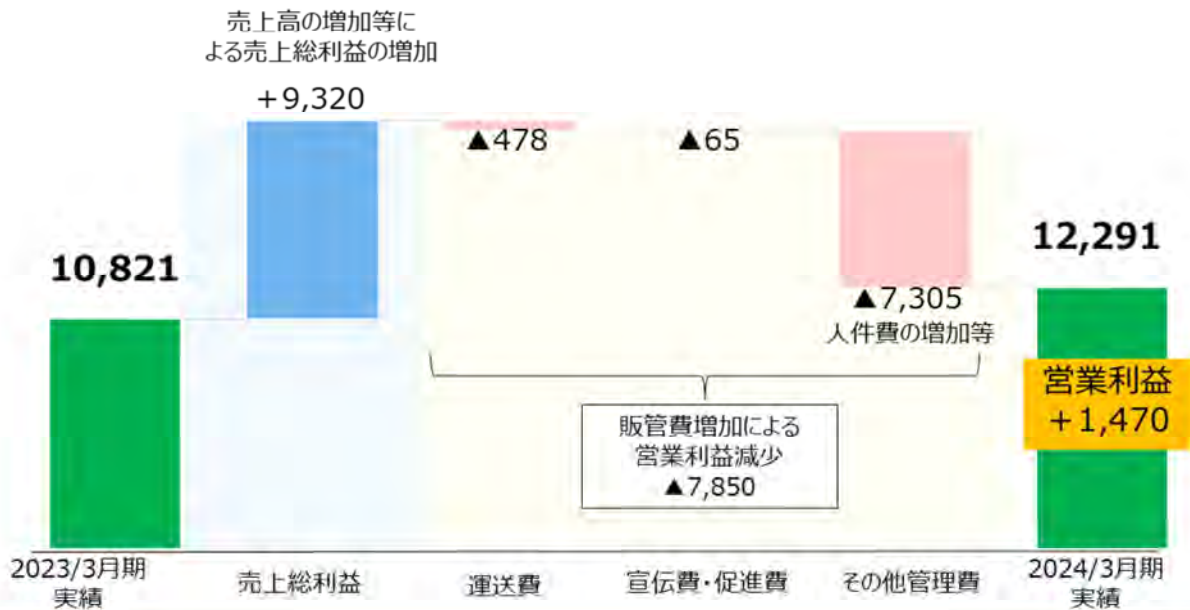
▶ 続いて宝酒造インターナショナルグループの事業戦略をご説明します。

## 2024年3月期 宝酒造インターナショナルグループ 営業利益増減分析 <対前期>

売上高の増加に加えてM&A効果もあり、売上総利益が増加したことで人件費の増加等を補い、増益となる

◇対前期営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示)

(百万円)



Takara

28

- こちらもはじめに、2024年3月期営業利益実績の前期対比での増減分析です。
- 売上高の増加に加えてM&A効果もあり、売上総利益が93億2,000万円増加しました。
- これにより、人件費の増加等による販管費の増加額78億5,000万円を補い、営業利益は14億7,000万円の増益となりました。

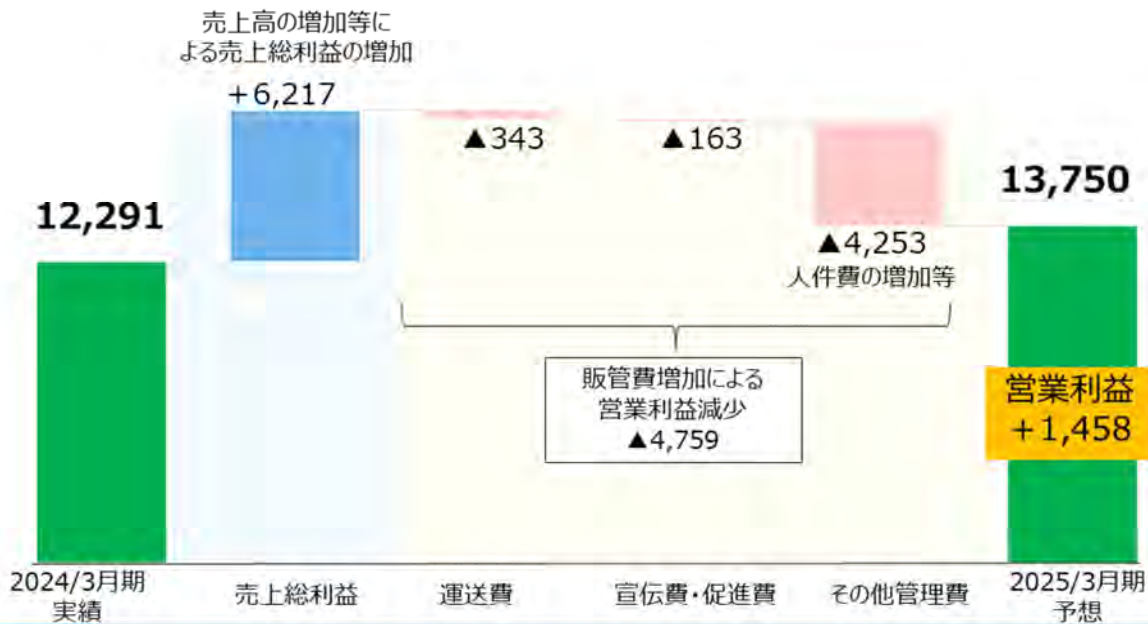


## 2025年3月期 宝酒造インターナショナルグループ 営業利益増減分析 <対前期>

引き続き売上高を拡大させることで売上総利益が増加し、人件費の増加等を補い、増益とする計画

◇対前期営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示)

(百万円)



- こちらは2025年3月期の営業利益計画の前期対比での増減分析です。
- 引き続き売上高を拡大させることで売上総利益が62億1,700万円増加し、人件費の増加等による販管費の増加額47億5,900万円を補い、営業利益は14億5,800万円増益とする計画です。

### 全体方針

和酒・日本食材卸事業の飛躍的成長と洋酒事業の安定的成長により、グループ全体の収益成長を実現する

- グループネットワークを最大限に活用することで、消費者や他社の情報を収集・分析し、商品開発やブランド育成、提案営業、SCM機能強化に活かし、個々の施策の実行速度と精度を高める。
- 事業環境の変化に対応し、事業拡大に取り組むとともに、利益重視の方針を継続・強化する。
- 将来の持続的成長に向け、メリハリをつけた投資を行う一方、経営基盤のさらなる強化に努める。

- 宝酒造インターナショナルグループの全体方針は、和酒・日本食材卸事業の飛躍的成長と洋酒事業の安定的成長により、グループ全体の収益成長を実現することです。
- 重点テーマは、
  - ・ グループネットワークを最大限に活用することで、消費者や他社の情報を収集・分析し、商品開発やブランド育成、提案営業、SCM機能強化に活かし、個々の施策の実行速度と精度を高める。
  - ・ 事業環境の変化に対応し、事業拡大に取り組むとともに、利益重視の方針を継続・強化する。
- 等の3つであります。

### 海外酒類事業（和酒）

#### 事業方針

宝酒造および海外グループ会社とのシナジーの最大化を図り、和酒事業の飛躍的拡大を目指す

#### ●「商品開発」

- ・トラディショナルな和酒は「白壁蔵」ブランドを活性化し、海外で通用する強固なブランドに育成する。
- ・イノベーティブな和酒はグローバル和酒協業プロジェクトを主体に、開発スピードを加速する。
- ・各国の環境や法規制の変化に対応し、輸出商品の規格適合を強化する。

#### ●「濡」育成

グローバル重点ブランド「濡」の拡売に最注力し、飛躍的な拡大に再挑戦する。  
～改めて戦略ターゲット像を明確にし、効果的な育成策を実行する～

- 海外酒類事業の和酒の事業方針は、宝酒造および海外グループ会社とのシナジーの最大化を図り、和酒事業の飛躍的拡大を目指すことです。
- 重点テーマは、
- 商品開発では
  - ・トラディショナルな和酒は「白壁蔵」ブランドを活性化し、海外で通用する強固なブランドに育成する。
  - ・イノベーティブな和酒はグローバル和酒協業プロジェクトを主体に、開発スピードを加速する等、
- 「濡」育成では、グローバル重点ブランド「濡」の拡売に最注力し、飛躍的な拡大に再挑戦することを掲げています。

## 海外酒類事業（和酒）取り組み計画 商品開発

日本産・現地産それぞれにおいて、高付加価値・高利益商材の投入による商品ポートフォリオの充実を更に進める

- 米国では、白壁蔵高付加価値商品の開発強化と、新ブランドの展開を推進
- 中国では、中国産純米酒などの商品開発を推進

・海外専用商品の開発計画（清酒、RTD含む）

2024年3月期 実績	延べ14アイテム	2025年3月期 計画	延べ9アイテム
----------------	----------	----------------	---------

### ◆ 戦略指標

輸出売上高	15億円（前期比117%）
日本産酒類輸出国数	60カ国（前期比+3カ国）

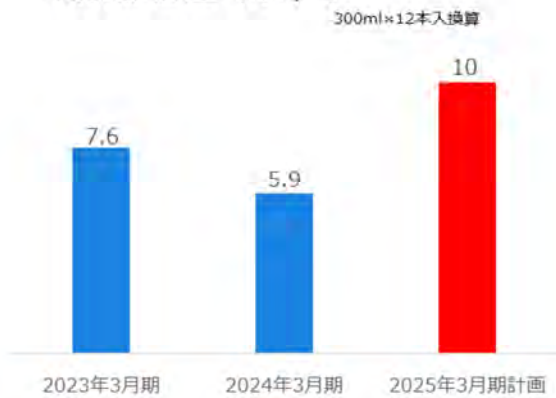
- 商品開発においては、日本産・現地産それぞれにおいて、高付加価値・高利益商材の投入による商品ポートフォリオの充実を進めてまいります。米国では、白壁蔵高付加価値商品の開発強化や新ブランドの展開を推進し、中国では、中国産純米酒等の商品開発を推進してまいります。
- 戦略指標として、輸出売上高を15億円、前期比117%に、日本産酒類輸出国数を60カ国に拡大すること掲げています。



# 海外酒類事業（和酒） 取り組み計画 「澪」の育成

物流混乱に伴う2023年3月期の市中在庫増により、2024年3月期は前期を下回ったが、海外専用商品の導入等により再び拡大に転じる計画

・「澪」輸出数量（万C/S）



・2024年3月期「澪」輸出金額（千円）

4-11月	前期比 (%)	12-3月	前期比 (%)
176,953	81	68,480	126

・「澪」海外専用商品



「澪」<CRISP> 「澪」<NIGORI> 日系スーパー導入事例

## ◆戦略指標

「澪」輸出数量 10万C/S（前期比169%）



- 次に「澪」の育成です。
- 「澪」の輸出数量は、物流混乱に伴う2023年3月期の市中在庫増の影響により、2024年3月期は前期を下回りました。
- しかしながら、「澪」クリस्पや「にごり」等の海外専用商品を導入した2023年12月以降、輸出金額が前期を上回って推移しています。
- 2025年3月期は、「澪」の輸出数量を再び拡大させ、10万C/Sとする計画です。



## 海外酒類事業（和酒） 取り組み計画 「漣」の育成

SNS等を用いた情報発信等により、「漣」ブランドを活性化

- 「漣」<CRISP>、<NIGORI> 等海外専用商品を  
活用した漣ブランドの活性化
- 重点4か国（アメリカ、香港、イギリス、台湾）での  
新規導入店、ターゲットユーザーに向けた情報発信強化
  - ・各国毎の「漣」公式SNSアカウントからの情報発信
  - ・MLB「ニューヨーク・メッツ」との2024年度  
オフィシャルスポンサー契約を締結



※ドジャーススタジアムの  
VIPルームのメニューに「漣」750ml  
が採用



- そのために、「漣」クリस्पや「にごり」等の海外専用商品の活用や、
- 重点4か国（アメリカ、香港、イギリス、台湾）での新規導入店、ターゲットユーザーに向けたSNS等を用いた情報発信を強化してまいります。
- 「漣」拡売に向けた施策のひとつとして、宝酒造インターナショナルのグループ会社である米国宝酒造が、メジャーリーグの「ニューヨーク・メッツ」との2024年度オフィシャルスポンサー契約を締結しました。
- スパークリング日本酒「漣」が、日本酒で初めてメッツ本拠地のシティ・フィールド内でのレストラン等で提供されることとなります。

## 海外酒類事業（和酒）輸出拡大の取り組み 日本酒

「霽」のラインアップを強化し、米国、アジア、欧州の各国に海外専用商品を投入。  
「松竹梅」ブランドの高付加価値商品と合わせて各国で展開

宝酒造 X 宝酒造  
インターナショナル  
グループ

**アジア**  
「霽」<NIGORI>  
2023年12月輸出  
松竹梅「金賞受賞酒」大吟醸  
2023年11月輸出

**欧州**  
「霽」<NIGORI>  
2023年12月輸出

**米国**  
「霽」<CRISP>  
2023年11月輸出  
松竹梅「白壁蔵」<山廃特別  
純米>氷室蔵十年貯蔵  
2023年11月輸出

- こちらは海外地域別での輸出商品をまとめたものです。
- 2023年11月以降、輸出商品を次々と投入しております。
- 日本酒では、「霽」のラインアップを強化し、米国、アジア、欧州の各国に海外専用商品を投入しており、「松竹梅」ブランドの高付加価値商品と合わせて各国で展開しております。

## 海外酒類事業（和酒）輸出拡大の取り組み RTD

現地ニーズをとらえた缶入り「TaKaRa CHU-HI」をRTDの最大市場である米国に輸出。寶NIPPON CHU-HI「日本の農園から」をアジア・オセアニア、欧州に、タカラ「焼酎ハイボール」はアジア・オセアニア限定で輸出



- こちらはRTDです。
- 現地ニーズをとらえた缶入り「TaKaRa CHU-HI」をRTDの最大市場である米国に輸出しています。
- また、寶NIPPON CHU-HI「日本の農園から」をアジア・オセアニア、欧州に輸出する予定です。
- さらに、タカラ「焼酎ハイボール」はアジア・オセアニア限定で輸出を開始しています。



## 海外酒類事業（和酒）イノベティブな和酒の拡大に向けた取り組み

SAKEカクテルなどのイノベティブな和酒を開発し、ミューチャルトレーディング社との協業により販売を拡大していく

<オンタリオ社>

- 新フレーバー導入や小容量展開によるSAKEカクテルの拡売
- 米国へのSAKEカクテル輸出開始に向けたミューチャルトレーディング社との協業
- 小売店への営業強化に加え、市内料飲店向け、直営店舗での販売を強化



オンタリオ社外観



- ▶ 続いてイノベティブな和酒の拡大に向けた取り組みについてです。
- ▶ 2023年5月にM&Aを実施したカナダのオンタリオ社では、新フレーバーの導入、小容量展開によるSAKEカクテルの拡売を計画しております。
- ▶ また、カナダからアメリカへの輸出開始に向けてミューチャルトレーディング社との協業を進めております。

## 海外酒類事業（和酒）イノベティブな和酒の拡大に向けた取り組み

2023年1月に投資した日本酒スタートアップ企業のWAKAZE社との協業を進め、米国向け缶入りスパークリングSAKEの受託製造を開始

<WAKAZE社との協業>



- ・商品名：「SummerFall」  
〈CLASSIC BUBBLES〉
- ・容量/容器：236ml/缶
- ・製造：Takara Sake USA Inc.  
(カリフォルニア州・バークレー)
- ・現地小売価格：6ドル
- ・販売ルート：米国の高級グロッサリーなど小売店
- ・販売開始日：2024年4月18日

カリフォルニア産の米で白麴を使用しフランスワイン酵母で仕込んだ、アルコール分11%のスパークリングSAKE

- ▶ 2023年1月に投資した日本酒スタートアップ企業のWAKAZE社との協業も進めてまいりました。
- ▶ 宝グループの酒造りにおける大規模製造技術を活かし、米国向け缶入りスパークリングSAKE「サマーフォール」の受託製造を開始しました。



### 海外日本食材卸事業

#### 事業方針

チャネルの多角化推進、新規エリア開拓および差異化商品の開発・育成により、市場成長を大きく上回る飛躍的成長を実現する

- エリア・拠点拡大による売上成長を推進する。
- 価値の高い差異化商品の拡充と市場のニーズに合わせた新商品開発を進め、売上拡大を図る。
- 販売チャネルの多角化を推進し、環境変化に強い事業構造を構築する。
- 「滯」を始めとする和酒の販売を強化し、競合他社に対する「強み」、「差異化ポイント」とする。
- 利益重視の徹底および経営基盤を強化する。

- 続いて、海外日本食材卸事業です。
- 事業方針はチャネルの多角化推進、新規エリア開拓および差異化商品の開発・育成により、市場成長を大きく上回る飛躍的成長を実現することです。
- 重点テーマは、
  - ・ エリア・拠点拡大による売上成長を推進する。
  - ・ 価値の高い差異化商品の拡充と市場のニーズに合わせた新商品開発を進め、売上拡大を図る。
- 等ご覧の5つを掲げています。

# 海外日本食材卸事業 成長著しいテキサス州での拠点拡大計画

ミナモトホールセール社のM&Aに続き、2024年秋頃にはヒューストン市に新たな拠点の開設を計画。テキサス州南部の大都市圏一帯等、周辺エリアでの販売をさらに強化

・テキサス州における各都市部の位置関係



・テキサス州の特徴

- ・人口がカリフォルニア州に次いで2位
- ・企業の進出が進み、高い経済成長が期待される
- ・日本食レストラン数が全米4位
- ・日本食レストランの増加率が高い

22年 順位	州	日本食レストラン軒数	
		2022年	増加率 22年/18年
1	カリフォルニア	4,995	111.8%
2	ニューヨーク	1,936	102.3%
3	フロリダ	1,501	118.6%
4	<b>テキサス</b>	<b>1,197</b>	<b>149.3%</b>
5	ワシントン	1,016	113.1%
6	ニュージャージー	893	121.3%
7	ペンシルバニア	729	150.3%
8	ノースカロライナ	717	122.8%
9	ジョージア	667	112.3%
10	イリノイ	644	112.4%

ジェトロ調べ

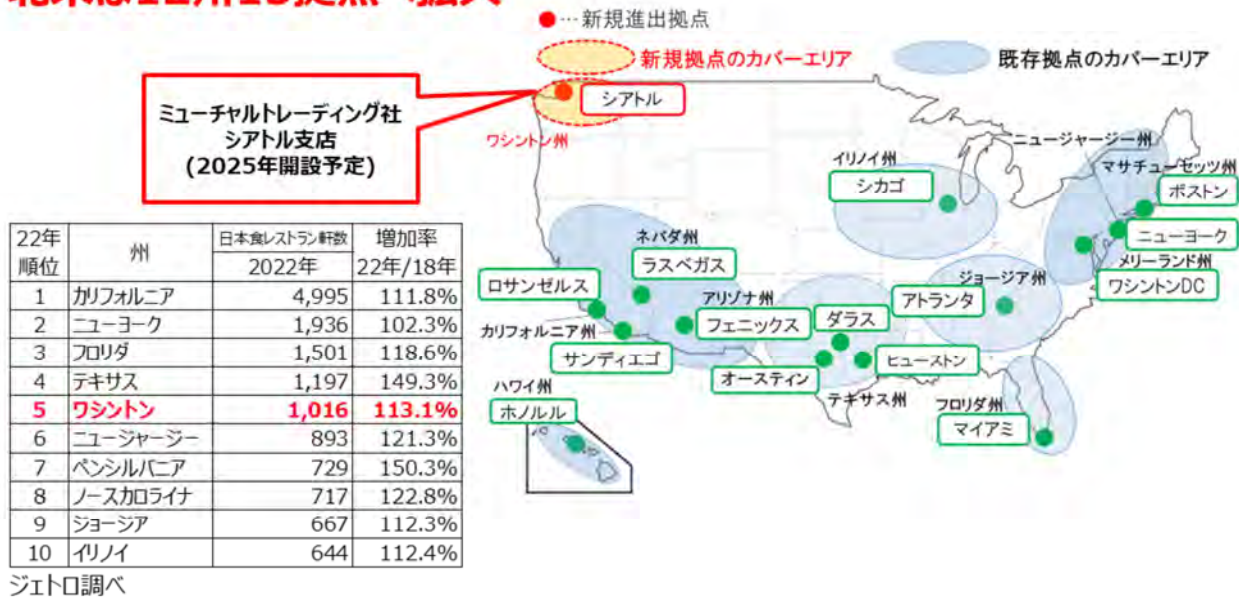


- まずは、エリア、拠点の拡大についてご説明します。
- テキサス州での拠点拡大計画です。
- テキサス州は、人口がカルフォルニア州に次いで全米2位であり、日本企業の進出も進んでいます。
- また、日本食レストラン数は全米4位であり、2018年から2022年の間で増加率が149.3%と非常に高くなっています。
- こうした成長著しいテキサス州において、2023年のミナモトホールセール社のM&Aに続き、2024年秋頃にはヒューストン市にミューチャルトレーディング社の新たな拠点の開設を計画しております。
- これにより、テキサス州南部の大都市圏一帯等、周辺エリアでの販売をさらに強化してまいります。

# 海外日本食材卸事業 新規拠点の開発計画

2025年にはアメリカ西部ワシントン州の最大都市であるシアトル市に新たな拠点の開設を計画

## 北米は12州15拠点へ拡大



- さらに、これまでに拠点のないエリアへの進出計画として、2025年には日本食レストラン数が全米5位のアメリカ西部ワシントン州の最大都市であるシアトル市に新たな拠点の開設を計画しています。
- これにより、北米では12州15拠点となり、今後も更に拠点の拡充を進め、早期に20拠点を目指してまいります。



# 海外日本食材卸事業 取り組み計画 新商品開発

植物由来商品、オーガニック、ヴィーガン食品、高級和牛等の差異化商品の拡充を進める

## ● 差異化商品の拡充



植物由来商品（こんにゃくベースのさしみ、大豆・エンドウ豆ベースのポーク他）

オーガニック・ヴィーガン食品  
(タザキフーズ社商品例)

高級和牛（宮崎牛、神戸牛などのブランド牛）

オーガニックおよびヴィーガン食品取扱数	目標	1,469（前期比+36）
食物アレルギー対応商品取扱数		1,657（前期比+19）

➤ 続いて、新商品開発ですが、こんにゃくベースのさしみ等の植物由来商品、オーガニック、ヴィーガン食品、高級和牛等の差異化商品の拡充を進めてまいります。

量販店、加工用、輸出等の販路を拡大し、販売チャネルの多角化を推進

- 北米における米系、アジア系量販店の開拓
- 需要が高まるケータリング業態へのアプローチ  
(パリ五輪開催によるオリンピック選手村、クルーズ船内サービス)
- 今後日本食の広がりが見込めるエリアである  
北欧、東欧などの新規輸出国の開拓強化

ケータリングフード イメージ



スシプレート



ポケ丼

➤ 販売チャネルについては、北米における米系、アジア系量販店の開拓や、パリオリンピック時の選手村やクルーズ船内のケータリングサービス等、量販店、加工用、輸出等の販路を拡大してまいります。



## 海外日本食材卸事業 取り組み計画 和酒の販売強化

和酒の販売強化に向けた施策および、本社・グループ一体となった取り組みを推進

### ●和酒の販売強化に向けた施策の推進

- ・店頭化率の低い、小売チャネルの開拓加速（ワインショップ他）
- ・和酒展示会でのプロモーション活用
- ・酒類専門人財の育成と組織の強化、和酒に関する社内教育の推進



### ●「澪」の販売強化に向け、グループ会社別に目標を設定し、本社・グループ会社が一体となった取り組みの推進

#### ◆戦略指標

日本食材卸会社（5社計）  
「澪」販売数量

2.9万C/S（前期比144%）

- また、和酒の販売強化に向けた施策や、本社と海外の日本食材卸グループ会社が一体となり、「澪」の販売強化に向けた取り組みを推進してまいります。

## 海外酒類事業（洋酒）

### 事業方針

「ブラントン」「トマーチン」のブランド価値のさらなる向上を図り、安定的な利益成長を実現する。

- プレミアムゾーン商品である「ブラントン・ゴールド」の販売強化
- トマーチンにおける新ビジターセンターの建築によるファン層の拡大



ブラントン・ゴールド



新ビジターセンターイメージ

- ▶ 洋酒の事業方針は、「ブラントン」「トマーチン」のブランド価値のさらなる向上を図り、安定的な利益成長を実現することです。
- ▶ ブラントンは、プレミアムゾーン商品である「ブラントン・ゴールド」の販売強化を、トマーチンでは、新ビジターセンターの建築によるファン層の拡大を進めてまいります。

## IV. サステナビリティ

➤ 続いてサステナビリティに対する取り組みです。

## 社会課題の解決に資するバリューチェーンの強化<人財>

### ● 海外事業拡大に向けた人財の強化

- ・若手社員の宝酒造インターナショナルグループへの配置および海外赴任の継続強化
- ・グローバルカフェ（海外勤務者とのWeb交流会）の開催
- ・語学研修、TOEIC受験支援等の語学スキル習得支援の継続



### ● 女性活躍推進法・行動計画およびサステナビリティビジョンに掲げる目標に向けた取り組みの継続



- まずは社会課題の解決に資するバリューチェーンの強化についてです。
- 人財については、海外事業拡大に向けて、若手社員の宝酒造インターナショナルグループへの配置や海外赴任の継続強化、各種研修の支援も継続してまいります。
- また、女性活躍推進法・行動計画およびサステナビリティビジョンに掲げる目標に向けた取り組み等を継続してまいります。

## 社会課題の解決に資するバリューチェーンの強化＜気候変動への対応＞

### ● CO<sub>2</sub>削減への取り組み継続

- ・黒壁蔵 重油ボイラーのガス化
- ・宝酒造におけるフェリー、鉄道へのモーダルシフトの推進



### ● 開示基準への対応推進

- ・温室効果ガス排出量Scope1,2,3の算定や、TCFDシナリオ分析の範囲を海外酒類事業、海外日本食材卸事業へ拡大

#### ● 2024年3月期の取り組み

- ・2024年1月 宝ホールディングス、宝酒造の温室効果ガス（GHG）排出量算定への第三者認証取得



一般社団法人日本能率協会  
国際的な基準であるISO14064-3に準拠した  
第三者検証を実施するGHG排出量検証機関

- ・海外酒類事業のScope1,2,3を算定

- ▶ 続いて、気候変動への対応です。
- ▶ CO<sub>2</sub>削減の取り組みについては、宝酒造の黒壁蔵での重油ボイラーのガス化や宝酒造におけるフェリー、鉄道へのモーダルシフトを推進してまいります。
- ▶ また、開示基準への対応としては、海外酒類事業、海外日本食材卸事業のスコップワン、ツー、スリーの算定や、TCFDシナリオ分析の範囲を拡大してまいります。



## 事業（商品・サービス）を通じた社会課題の解決

### ●環境配慮型商品の開発（タカラバイオグループ）

・FSC認証材および植物由来オイルインクを使用した素材への切り替え、



・片面アルミパウチからアルミレスパウチへの切り替え



※一部の製品に関しては、製品の品質保持の観点から両面アルミパウチを使用

### ●「寶CRAFT」における地域振興



- 事業を通じた社会課題の解決に向けては、タカラバイオグループ等での環境配慮型商品の開発や、寶クラフト等、地域密着型商品を通じた地域振興に引き続き取り組んでまいります。

## **V. 財務方針**

- 最後に財務方針です。

## 財務および株主還元方針

### 財務方針

健全な財務体質の維持をベースとして、成長・強化領域への投資を加速するために、グローバルなキャッシュマネジメントを強化するとともに、資産の効率性の向上や、政策保有株式の売却等によりキャッシュフローを創出する。

### 株主還元方針

利益水準に応じた適切な株主還元（配当性向35%を目途）を実施する。

#### ◆政策保有株の縮減に向けた取り組み

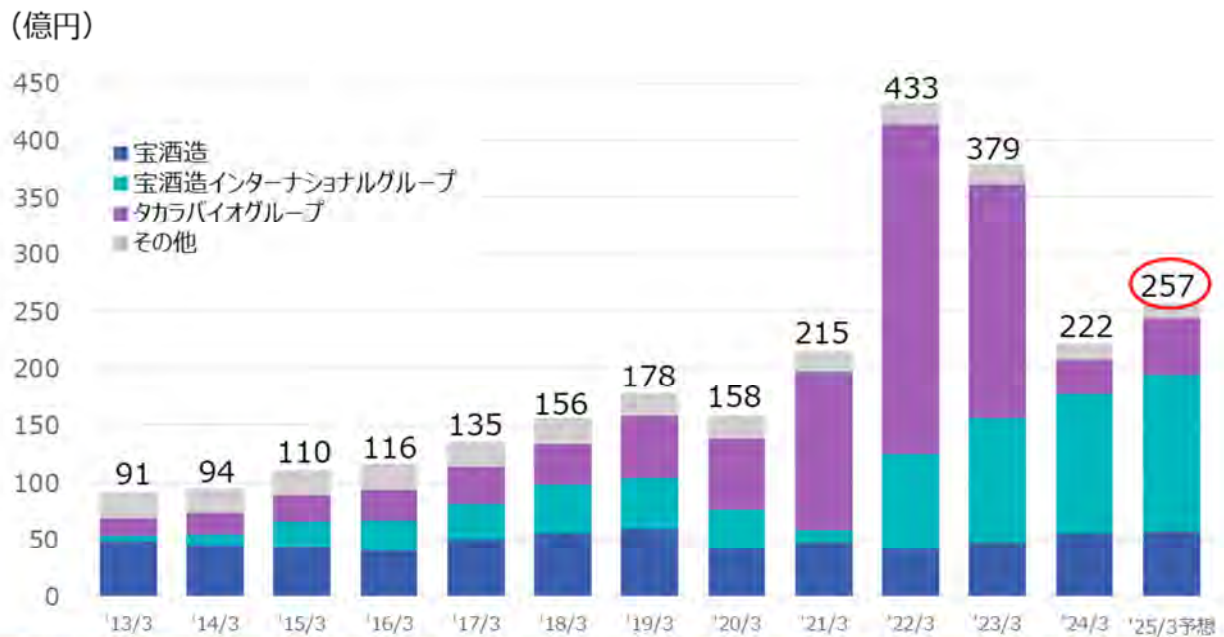
2024年3月期実績	
売却銘柄数	8
売却額	約48億円



- ▶ 宝グループの財務方針は、健全な財務体質の維持をベースとして、成長・強化領域への投資を加速するために、グローバルなキャッシュマネジメントを強化するとともに、資産の効率性の向上や、政策保有株式の売却等によりキャッシュフローを創出するとしています。
- ▶ 株主還元方針としては、利益水準に応じた適切な株主還元を、配当性向35%を目途に実施します。
- ▶ また、政策保有株の売却にも引き続き取り組んでおり、2024年3月期は8銘柄、約48億円の縮減を実施しました。2025年3月期も継続して取り組んでまいります。

## 宝ホールディングス（連結）営業利益推移

2025年3月期は2期連続の減益から脱却し、再び増益へと転換させる



※2017年7月宝酒造インターナショナルの設立に伴い事業セグメントを変更したため、2016年3月期以前の数値は参考値

52

- こちらは事業別の営業利益の推移を示したグラフです。
- 中計2年目の2025年3月期は、各事業が計画に掲げる戦略を推進することで利益成長を実現し、2期連続の減益から脱却し、再び増益へと転換させてまいります。

## Smiles in Life ～笑顔は人生の宝～

世界の人々に和酒・日本食を通じて豊かな食生活を、さらにバイオ事業により健康的な暮らしに貢献することで「Smiles in Life ～笑顔は人生の宝～」を実現していく。

### 宝ホールディングス株式会社

宝酒造株式会社  
宝酒造インターナショナル株式会社

タカラバイオ株式会社

人々の豊かな食生活への貢献

医療・健康領域における価値の創出

**Smiles in Life**  
～笑顔は人生の宝～



- ▶ 宝グループは、長期経営構想でありたい姿として掲げているビジョンを「Smiles in Life ～笑顔は人生の宝～」としています。
- ▶ 宝酒造・宝酒造インターナショナルグループにより世界の人々に和酒・日本食を通じて豊かな食生活をお届けし、さらにタカラバイオグループにより人々の健康的な暮らしに貢献することで、「Smiles in Life ～笑顔は人生の宝～」を実現していきます。
- ▶ これで、私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。



参考資料

2024年3月期業績	宝ホールディングス（連結）	損益計算書
	宝酒造	
	宝酒造インターナショナルグループ	
	宝酒造インターナショナルグループ 主要子会社	売上高、営業利益

2025年3月期 業績予想	宝ホールディングス（連結）	通期損益計算書
		キャッシュフロー計画
	宝酒造	通期損益計算書
	宝酒造インターナショナルグループ	
	宝ホールディングス（連結）	上期損益計算書
	宝酒造	
	宝酒造インターナショナルグループ	
宝酒造インターナショナルグループ主要子会社	売上高、営業利益	

# 2024年3月期 宝ホールディングス（連結）業績

## ◇連結損益計算書

(百万円)

	2024年3月期 実績	前期比		11/9予想比		為替レート 影響額 前期比
		増減	率(%)	増減	率(%)	
宝酒造	123,786	864	+ 0.7	1,319	+ 1.1	-
宝酒造インターナショナルグループ	160,427	22,943	+ 16.7	▲ 972	▲ 0.6	11,123
タカラバイオグループ	43,505	▲ 34,636	▲ 44.3	▲ 1,994	▲ 4.4	1,539
その他	30,271	▲ 678	▲ 2.2	▲ 158	▲ 0.5	-
調整額	▲ 18,619	213	-	177	-	-
売上高	339,372	▲ 11,293	▲ 3.2	▲ 1,627	▲ 0.5	12,662
売上総利益	113,933	▲ 6,008	▲ 5.0	▲ 466	▲ 0.4	
販売費及び一般管理費	91,691	9,695	+ 11.8	▲ 1,008	▲ 1.1	
宝酒造	5,503	612	+ 12.5	176	+ 3.3	
宝酒造インターナショナルグループ	12,291	1,470	+ 13.6	91	+ 0.8	
タカラバイオグループ	3,003	▲ 17,537	▲ 85.4	3	+ 0.1	
その他	2,363	69	+ 3.0	▲ 7	▲ 0.3	
調整額	▲ 919	▲ 318	-	278	-	
営業利益	22,242	▲ 15,703	▲ 41.4	542	+ 2.5	
経常利益	23,336	▲ 15,369	▲ 39.7	836	+ 3.7	
特別利益	4,034	2,353	+ 140.0	1,264	+ 45.6	
特別損失	1,132	437	+ 62.9	462	+ 69.0	
親会社株主に帰属する当期純利益	16,176	▲ 5,030	▲ 23.7	1,176	+ 7.8	

## 2024年3月期 宝酒造 業績

### ◇損益計算書（売上高～営業利益）

(百万円)

	2024年3月期 実績	前期比		11/9予想比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
焼酎	34,324	▲ 2,272	▲ 6.2	669	+2.0
清酒	11,548	▲ 596	▲ 4.9	190	+1.7
ソフトアルコール飲料	42,290	2,221	+5.5	▲ 110	▲ 0.3
その他の酒類	5,434	105	+2.0	24	+0.4
本みりん	9,562	84	+0.9	452	+5.0
その他の調味料	9,223	442	+5.0	37	+0.4
原料用アルコール等	11,402	880	+8.4	58	+0.5
売上高	123,786	864	+0.7	1,319	+1.1
売上総利益	31,728	2,452	+8.4	462	+1.5
販売費及び一般管理費	26,225	1,839	+7.5	286	+1.1
営業利益	5,503	612	+12.5	176	+3.3

# 2024年3月期 宝酒造インターナショナルグループ<sup>®</sup> 業績

## ◇損益計算書（売上高～営業利益）

(百万円)

	2024年3月期 実績	前期比		11/9予想比		為替レート影響額 前期比
		増減	率(%)	増減	率(%)	
海 外 酒 類	20,926	2,673	+14.6	▲ 234	▲ 1.1	1,311
海 外 日 本 食 材 卸	141,816	20,461	+16.9	▲ 913	▲ 0.6	9,974
そ の 他	249	▲ 2,598	▲ 91.3	2	+0.8	▲ 162
連 結 消 去	▲ 2,564	2,407	-	175	-	
売 上 高	160,427	22,943	+16.7	▲ 972	▲ 0.6	11,123
売 上 総 利 益	51,715	9,320	+22.0	255	+0.5	
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	39,423	7,850	+24.9	163	+0.4	
海 外 酒 類	5,755	859	+17.6	▲ 105	▲ 1.8	
海 外 日 本 食 材 卸	8,883	1,324	+17.5	119	+1.4	
そ の 他	▲ 1,149	▲ 2,849	-	36	-	
連 結 消 去	▲ 1,197	2,136	-	41	-	
営 業 利 益	12,291	1,470	+13.6	91	+0.8	

## 2024年3月期 宝酒造インターナショナルグループ 主要子会社業績

		2023年3月期 実績		2024年3月期 実績	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益
米国宝酒造	千USドル	46,041	5,007	<b>44,771</b>	<b>5,048</b>
	百万円	6,060	659	<b>6,297</b>	<b>710</b>
宝酒造食品（中国）	千元	40,858	▲ 4,194	<b>44,002</b>	<b>▲ 2,983</b>
	百万円	796	▲ 81	<b>872</b>	<b>▲ 59</b>
トマーチン（英国）	千ポンド	31,190	11,191	<b>31,429</b>	<b>9,753</b>
	百万円	5,053	1,813	<b>5,501</b>	<b>1,707</b>
イヴ・インターナショナル（米国）	千USドル	43,445	20,330	<b>53,371</b>	<b>24,624</b>
	百万円	5,719	2,676	<b>7,507</b>	<b>3,463</b>
フォーデックス7社連結（欧州）	千ユーロ	182,053	11,684	<b>177,735</b>	<b>7,978</b>
	百万円	25,150	1,614	<b>27,033</b>	<b>1,213</b>
コミンポート・ケタフーズ（欧州）	千ユーロ	89,265	7,428	<b>98,747</b>	<b>10,995</b>
	百万円	12,332	1,026	<b>15,019</b>	<b>1,672</b>
タザキフーズ（英国）	千ポンド	69,068	1,602	<b>74,815</b>	<b>4,579</b>
	百万円	11,190	259	<b>13,094</b>	<b>801</b>
ミューチャルトレーディング（米国）	千USドル	499,304	27,344	<b>562,804</b>	<b>29,070</b>
	百万円	65,728	3,599	<b>79,164</b>	<b>4,089</b>
ニッポンフード（豪州）	千AUSドル	62,910	4,601	<b>67,298</b>	<b>3,974</b>
	百万円	5,733	419	<b>6,282</b>	<b>371</b>
東京共同貿易	百万円	13,634	791	<b>14,285</b>	<b>793</b>



## 2025年3月期 宝ホールディングス（連結）業績予想

### ◇連結損益計算書

(百万円)

	2025年3月期 通期予想	前期比		為替レート 影響額 前期比
		増減	率(%)	
宝酒造	122,373	▲ 1,413	▲ 1.1	-
宝酒造インターナショナルグループ	179,000	18,572	+11.6	57
タカラバイオグループ	48,900	5,394	+12.4	▲ 180
その他	31,357	1,085	+3.6	-
調整額	▲ 19,630	▲ 1,010	-	-
売上高	362,000	22,627	+6.7	▲ 122
売上総利益	123,500	9,566	+8.4	
販売費及び一般管理費	97,800	6,108	+6.7	
宝酒造	5,731	227	+4.1	
宝酒造インターナショナルグループ	13,750	1,458	+11.9	
タカラバイオグループ	5,000	1,996	+66.5	
その他	2,543	179	+7.6	
調整額	▲ 1,324	▲ 404	-	
営業利益	25,700	3,457	+15.5	
経常利益	26,300	2,963	+12.7	
特別利益	2,300	▲ 1,734	▲ 43.0	
特別損失	500	▲ 632	▲ 55.8	
親会社株主に帰属する当期純利益	17,200	1,023	+6.3	

## 2025年3月期 宝ホールディングス（連結）キャッシュフロー計画

### ◇キャッシュフロー計画

(億円)

	宝グループ連結	宝酒造	宝酒造 インターナショナル グループ連結	タカラバイオ グループ連結
I 営業CF	334	73	101	133
II 投資CF	▲255	▲42	▲94	▲104
III フリーCF	78	30	6	29
IV 財務CF	▲164	▲35	▲1	▲20
V 合計	▲86	▲5	▲5	9

## 2025年3月期 宝酒造 業績予想

◇損益計算書（売上高～営業利益）

(百万円)

	2025年3月期 通期予想	前期比	
		増減	率(%)
焼酎	31,278	▲ 3,046	▲ 8.9
清酒	11,676	127	+1.1
ソフトアルコール飲料	44,543	2,252	+5.3
その他の酒類	5,225	▲ 209	▲ 3.8
本みりん	9,403	▲ 159	▲ 1.7
その他調味料	9,165	▲ 58	▲ 0.6
原料用アルコール等	11,080	▲ 322	▲ 2.8
売上高	122,373	▲ 1,413	▲ 1.1
売上総利益	32,160	431	+1.4
販売費及び一般管理費	26,429	203	+0.8
営業利益	5,731	227	+4.1

## 2025年3月期 宝酒造インターナショナルグループ 業績予想

### ◇損益計算書（売上高～営業利益）

(百万円)

	2025年3月期 通期予想	前期比		為替レート 影響額
		増減	率(%)	
海外酒類	22,714	1,787	+8.5	▲ 23
海外日本食材卸	158,997	17,181	+12.1	67
その他	549	300	+120.7	13
連結消去	▲ 3,261	▲ 697	-	
売上高	179,000	18,572	+11.6	57
売上総利益	57,933	6,217	+12.0	
販売費及び一般管理費	44,183	4,759	+12.1	
海外酒類	6,471	715	+12.4	
海外日本食材卸	9,758	874	+9.8	
その他	▲ 866	283	-	
連結消去	▲ 1,613	▲ 415	-	
営業利益	13,750	1,458	+11.9	



## 2025年3月期 宝ホールディングス（連結） 上期業績予想

### ◇連結損益計算書

(百万円)

	2025年3月期 上期予想	前期比	
		増減	率(%)
宝酒造	60,173	▲ 1,017	▲ 1.7
宝酒造インターナショナルグループ	85,000	7,835	+10.2
タカラバイオグループ	20,200	1,083	+5.7
その他	15,221	354	+2.4
調整額	▲ 9,022	143	—
売上高	171,000	7,827	+4.8
売上総利益	57,500	2,040	+3.7
販売費及び一般管理費	47,100	4,104	+9.5
宝酒造	2,797	▲ 1,155	▲ 29.2
宝酒造インターナショナルグループ	6,750	493	+7.9
タカラバイオグループ	150	▲ 1,260	▲ 89.4
その他	1,234	40	+3.4
調整額	▲ 468	▲ 119	—
営業利益	10,400	▲ 2,064	▲ 16.6
経常利益	10,800	▲ 2,232	▲ 17.1
特別利益	2,300	2,263	+6,194.6
特別損失	100	15	+18.7
親会社株主に帰属する当期純利益	8,600	556	+6.9

## 2025年3月期 宝酒造 上期業績予想

◇損益計算書（売上高～営業利益）

(百万円)

	2025年3月期 上期予想	前期比	
		増減	率(%)
焼酎	16,141	▲ 1,328	▲ 7.6
清酒	4,311	58	+1.4
ソフトアルコール飲料	22,627	844	+3.9
その他の酒類	2,605	▲ 145	▲ 5.3
本みりん	4,556	9	+0.2
その他の調味料	4,515	67	+1.5
原料用アルコール等	5,415	▲ 526	▲ 8.9
売上高	60,173	▲ 1,017	▲ 1.7
売上総利益	15,751	▲ 223	▲ 1.4
販売費及び一般管理費	12,954	932	+7.8
営業利益	2,797	▲ 1,155	▲ 29.2

## 2025年3月期 宝酒造インターナショナルグループ 上期業績予想

◇損益計算書（売上高～営業利益）

(百万円)

	2025年3月期 上期予想	前期比	
		増減	率(%)
海外酒類	11,087	825	+8.0
海外日本食材卸	75,203	7,119	+10.5
その他	508	293	+136.4
連結消去	▲ 1,800	▲ 402	-
売上高	85,000	7,835	+10.2
売上総利益	27,616	3,238	+13.3
販売費及び一般管理費	20,866	2,745	+15.1
海外酒類	3,183	379	+13.5
海外日本食材卸	4,770	56	+1.2
その他	▲ 212	288	-
連結消去	▲ 990	▲ 230	-
営業利益	6,750	493	+7.9

## 2025年3月期 宝酒造インターナショナルグループ 主要子会社業績予想

		2024年3月期 実績		2025年3月期 予想	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益
米国宝酒造	千USD	44,771	5,048	<b>48,501</b>	<b>6,211</b>
	百万円	6,297	710	<b>6,790</b>	<b>869</b>
宝酒造食品（中国）	千元	44,002	▲ 2,983	<b>58,344</b>	<b>108</b>
	百万円	872	▲ 59	<b>1,143</b>	<b>2</b>
トマーチン（英国）	千ポンド	31,429	9,753	<b>32,412</b>	<b>11,031</b>
	百万円	5,501	1,707	<b>5,736</b>	<b>1,952</b>
I・I・インターナショナル（米国）	千USD	53,371	24,624	<b>56,656</b>	<b>25,212</b>
	百万円	7,507	3,463	<b>7,931</b>	<b>3,529</b>
フーデックス7社連結（欧州）	千ユーロ	177,735	7,978	<b>194,589</b>	<b>9,812</b>
	百万円	27,033	1,213	<b>29,772</b>	<b>1,501</b>
コミンポート連結（欧州）	千ユーロ	96,163	10,995	<b>102,812</b>	<b>10,513</b>
	百万円	14,626	1,672	<b>15,730</b>	<b>1,608</b>
タザキフーズ（英国）	千ポンド	74,815	4,579	<b>79,800</b>	<b>4,718</b>
	百万円	13,094	801	<b>14,124</b>	<b>835</b>
ミューチャルトレーディング（米国）	千USD	562,804	29,070	<b>644,826</b>	<b>32,900</b>
	百万円	79,164	4,089	<b>90,275</b>	<b>4,606</b>
ニッポンフード（豪州）	千AUD	67,298	3,974	<b>74,525</b>	<b>5,200</b>
	百万円	6,282	371	<b>7,027</b>	<b>490</b>
東京共同貿易	百万円	14,285	793	<b>14,697</b>	<b>649</b>

(注)管理体制の変更に伴い、2024年3月期まで「コミンポート・ケタフーズ」として単純合算で表記していた数値を、2025年3月期より「コミンポート連結」として連結修正後の数値で記載しております。本表の2024年3月期実績は、当該変更を反映して組み替えております。



### 将来見通しに関する注意事項

この資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

<お問合せ先>

宝ホールディングス株式会社

広報・IR部

E-Mail [ir@takara.co.jp](mailto:ir@takara.co.jp)

TEL 075-241-5124